從來所無也、又古紙張ノミニ非ズ、新紙製モアリ、又綿ニ代ルニボロト號ケテ、更ニ不用ノ古々裁レヲ集メ納ルモアリ、

〔古事談三僧行〕惠心僧都ノ姉安養尼終焉ノ時ハ、必可來會由、僧都契約云々、〇略中此安養尼ノ許ヘ、強盗亂入シ、家中ニ有程ノ物皆搜取出去、尼紙衾計著テ被居ケリ、〇今著聞集又見古

〔徒然草上〕さすがに一度道に入て世をいとはん人、たとひ望ありとも、いきほひある人の貪欲おほきにはにるべからず、紙の衾、麻の衣、一鉢のまうけ、あかざのあつ物、いくばくか人のつひへをなさん、

〔後撰夷曲集四冬〕おちぶれて紙衾をかぶり敷てぬるとて

本歌おそろしや思ふ中をもさけつべし夜の衾のかみなりの音　讀人不知

〔空穗物語藏開上〕中納言ひさしういもね侍らねば、みだりこゝちいとあしう侍るつみゆるし給へとて、宮の御かたはらにうちふし給ぬ、うへのおとゞうたてものおぼえぬさまし給めり、さて忍びてさぶらひ給へとて出給ぬれば、中納言御ふすまひきゝてきこゆるやう、かゝるものまたもがなゝいとくこたみは、なかたゞがやうにてをときこゆれば、うたていふものかなゝいとおそろしきわざにこそありけれとおぼして、いでもし給はず、

〔空穗物語菊宴〕きさいの宮の賀、正月廿七日にいでくるおとねになむ、つかまつり給ける、まうけられたるもの、〇略中御ぞは女御ふすま御よそひ、なつ冬春秋よるの御ぞ、

〔源氏物語九葵〕ひるつかたわたり給て、なやましげにし給らんは、いかなる御こゝちぞ、けふはごもうたて、さう〳〵しやとて、のぞき給へば、いよ〳〵御ぞひきがづきてふし給へり、人々去りぞきつゝさぶらへば、より給て、などかくいぶせき御もてなしぞ、思のほかにこゝろうくこそおはしけれな、人もいかにあやしとおもふらんとて、御ふすまを引やり給へれば、あせにをしひたして、

衾用法